

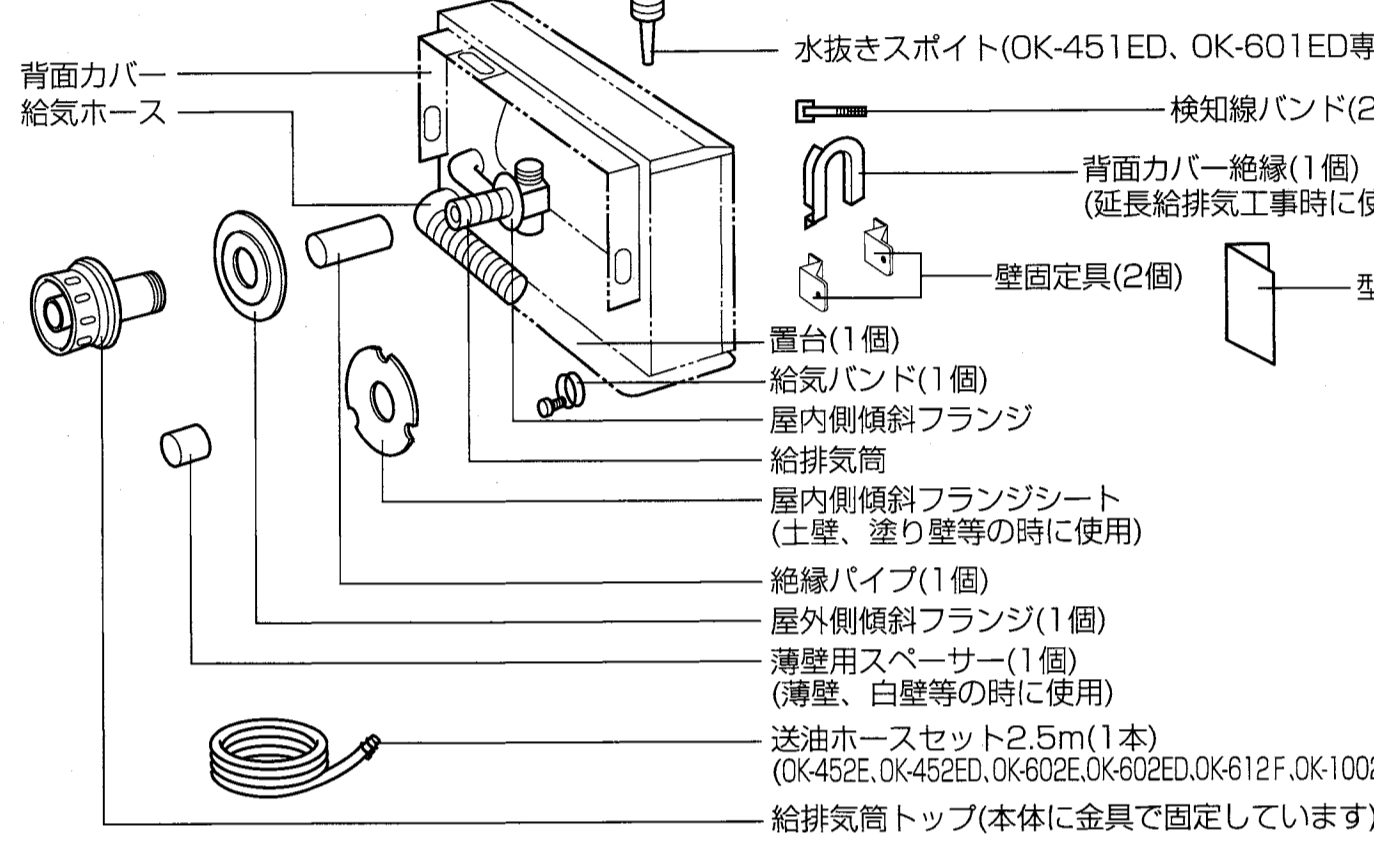
注意

- お客さまご自身による工事はお避けください。据付工事は専門家に依頼ください。
- 据付工事は安全確保のために、手袋などの保護具を着用してください。
- 排ガスは必ず屋外に出してください。
- 排ガスを室内に出すと、一酸化炭素などが発生して、中毒になるおそれがあります。
- この工事説明書、別売部材に同梱の説明書の手順・注意を必ずお守りください。
- 手順を誤ったり、注意事項を守らなかった場合、予想しない事故が発生するおそれがあります。
- 給気・排気部材は「ナショナルFF式石油温風機」専用のものを必ずお使いください。
- 新しいものを使ってください。古いものは損傷していることがあります。
- 必ず試運転を行い、安全を確かめてください。
- 油漏れ、排気漏れ(臭気)、燃焼の異常などがなければ確かめてください。
- お客さまと立ち合いで運転してください。

※本説明書のイラストはOK-452ED、OK-602EDで説明しています。

開こん

段ボール箱からストーブを取り出し、給排気筒トップをはずします。次にパッキン材、テープなどを取り除き、付属品を確認してください。



ビスセット	
タッピンネジ 4×25 (3本)	延長給排気工事に使用(屋内側傾斜フランジの固定用)
座付タッピンネジ(黒) 4×25 (2本)	本体固定に使用(壁固定具と壁の固定用)
タッピンネジ(黒) 4×8 (2本)	1本: タンク別設タイプ(OK1002Fをのぞく)に使用(本体と置台の固定用) 1本: 延長給排気工事に使用(背面カバー絶縁と背面カバーの固定用)

給排気筒(管、ホースなど)の取付け

標準給排気方式

標準給排気方式(壁直結)は付属品の「標準給排気筒セット」を使用した取付方式です。標準給排気方式以外にも部屋の条件によって、別売部材で窓などを利用したり、排気管と給気ホースを延長したりして取り付けることができます。取り付け方は別売部材に同梱の説明書にしたがってください。(ただし延長限度は3mで曲がりは3カ所以内です)

1 付属型紙の貼付

- 標準給排気方式の場合は図に示すようにストーブを据付ける位置の壁に接着テープなどで貼り付け、給排気筒取付け穴に合わせて印を付けてください。

2 穴あけ (標準対応壁厚135mm~260mm)

- 印を付けた位置に直径85mmまたは直径70mmの穴をあけてください。
- ただし、直径70mmの穴をあける場合は、5度先下りの穴をあけてください。
- 穴をあける時の振動により、外壁が大きくくずれ場合がありますので、先端が屋外に出たあとは、屋外より穴をあけてください。

3 給気ホースの接続(給排気筒側)

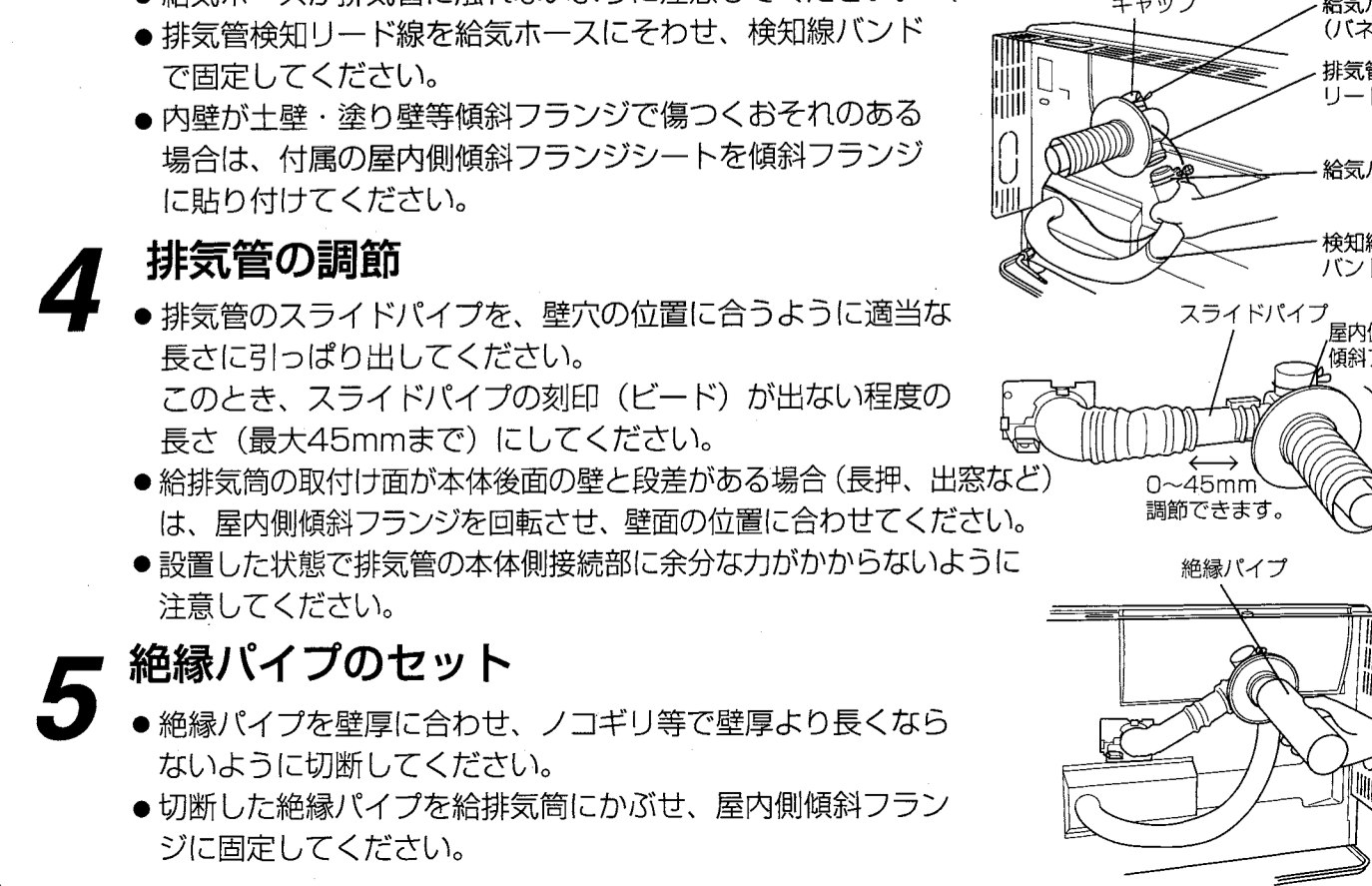
- 本体背面の給排気筒トップ固定金具と排気管保持金具を取りはずし、給排気筒を約90度回転させてください。
- 給気ホースを給排気筒の給気口に差し込み、給気バンドで固定してください。
- 使用しない給気口には必ずキャップと給気バンドを取り付けておいてください。
- 給気ホースが排気管に触れないように注意してください。
- 排気管検知リード線を給気ホースにそわせ、検知線バンドで固定してください。
- 内壁が土壁・塗り壁等傾斜フランジで傷つくおそれのある場合は、付属の屋内側傾斜フランジシートを傾斜フランジに貼り付けてください。

4 排気管の調節

- 排気管のスライドパイプを、壁穴の位置に合うように適当な長さで引っ張り出してください。
- このとき、スライドパイプの刻印(ビード)が出ない程度の長さ(最大45mmまで)にしてください。
- 給排気筒の取付け面が本体後面の壁と段差がある場合(長押、出窓など)は、屋内側傾斜フランジを回転させ、壁面の位置に合わせてください。
- 設置した状態で排気管の本体側接続部に余分な力がかからないように注意してください。

5 絶縁パイプのセット

- 絶縁パイプを壁厚に合わせ、ノコギリ等で壁厚より長くなるように切断してください。
- 切断した絶縁パイプを給排気筒にかぶせ、屋内側傾斜フランジに固定してください。



据付け

据付け場所の選定

- 1 可燃物との距離**
- 可燃物(木壁、合板壁、ふすまなど)から右図に示す距離をとってください。
 - 特にカーテンなどがストーブ、排気管にふれないようにしてください。
- 2 ストープは丈夫で水平な床面に設置してください。**
- 3 落下物の危険のない場所**
- 地震などのとき落下物の危険のない場所に設置してください。
- 4 性能をそこなないための空間**
- 耐火構造であっても、上記可燃物との距離がとれないような設置場所(マンホールピースや、凹部への据付け)はしないでください。
- 5 電源コンセントの位置**
- 歩行者が電源コードをひっかけないような位置の専用コンセント(AC100V)をご使用ください。
 - 電源コードは2mです。
- 6 燃焼用空気について**
- このストーブは給排気筒により、燃焼用の空気を屋外から取り入れ、排ガスを屋外に出します。給排気筒は正しく屋外に取り出せるように設置してください。

据付け方法(全機種共通)

- 1 置台の取付けと水平設置**
- 付属の置台を据付面に置き、ストーブの脚を置台の脚位置に乗せてください。
 - 置台と本体背面の置台固定金具をタッピンネジ(黒)を用いて、固定してください。
 - (長さ10mm以上のネジを使うと床を傷つきます。必ず指定のタッピンネジ(黒4×8)を使ってください。)(OK-452E、OK-452ED、OK-602E、OK-602ED、OK-612Fのみ)
 - 水平で丈夫な床面に据付けてください。
- 2 風向板の調節**
- ルーバー裏側の風向板により温風吹き出し方向を調節できます。据付けの後、ラジオペンチなどを用いて希望の方向に風向板を曲げてください。
 - (3回以上曲げないでください)

給排気筒(管、ホースなど)の取付け

6 本体の移動

- 絶縁パイプといっしょに、給排気筒を壁貫通穴へ差し込むように本体を壁面に寄せてください。
- 屋内側傾斜フランジの「屋内上」が上にくるように回してください。
- (逆に取り付けると雨水が室内に入り込むことがあります)

7 給排気筒トップの固定(壁厚135mm~260mmの場合)

- 屋外側傾斜フランジを給排気筒トップに挿入してください。
- 屋外側傾斜フランジには、シールパッキンが貼り付けてあります。
- 屋外側より絶縁パイプの中に給排気筒トップのねじ部を挿入し、給排気筒トップを右に回し、給排気筒に締め込んでください。
- 屋外側傾斜フランジの「屋外上」を上にして、給排気筒トップをしっかり締め付けてください。

給排気筒トップの固定(壁厚135mm以下や外壁が白壁や汚れやすい色・材質の場合)

- 給排気筒トップに薄壁用スペーサー、屋外側傾斜フランジの順に挿入してください。
- 絶縁パイプの中に、給排気筒トップのねじ部を挿入し、給排気筒トップを右に回し、給排気筒にねじが回らなくなるまで締め込んでください。
- 屋外側傾斜フランジの「屋外上」を上にして、給排気筒トップを壁側にしっかり締め付けてください。

8 壁固定具の取付け

- 付属の壁固定具を背面カバーの横穴(両側)に引っかけてください。長穴は4個ありますが、1つ選んでください。
- ①木または厚い合板の壁に固定する場合は、壁固定具を用いてねじで直接壁に固定してください。
- ②モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。
- ③石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。
- ④土壁・しっくい壁などように壁固定具が直接取り付けられない場合は、壁にそえ木をして壁固定具を取り付けてください。

注意
壁に固定できない場所での使用はできません。

据付け

据付けつっき

3 油タンクの据付けと送油ホースの接続

- 注意**
- 油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
 - 油タンクは、ストーブとの間に防火上有効な壁などがある場合を除き、2m以上離してください。
 - 油タンクを、40℃以上の場所、直射日光のあたる場所、雨水やほこりの入りやすい場所へ据付けることは避けてください。
 - 油タンクの近くに他の燃焼器具などを置かないでください。
 - 油タンクは不燃材料の上に置き、簡単に動いたり倒れたりすることのないよう据付けてください。たたみやじゅうたんの上は避けてください。
 - 送油ホースは屋外で絶対に使用しないでください。ヒビ割れの原因になります。屋外では、銅・銅管を使用してください。
 - 送油ホースは極端に曲げた状態で使用しないでください。ヒビ割れの原因になります。
 - 送油ホースは定期的点検し、2年一度は交換してください。
 - 送油ホースは付属の送油ホース(長さ2.5m)またはJIS S 3022(石油燃焼器具用送油管)に適合した送油ホースを使用してください。

油タンクの据付け

- 油タンクは本体と同一床面に相当する高さか、右図の寸法に従って据付けてください。

屋外タンクの場合

- 屋外側の送油配管については「据付工事部材マニュアル」に従って施工してください。
- 銅管、銅管保護パイプがメタルラス張り、ワイヤラス張りの壁を貫通する場合、壁貫通部に絶縁テープ等を巻いて電気的絶縁を施してください。

送油ホースの接続

- 送油ホースを油タンクの接続口(屋外タンクの場合は壁付コック等の接続口)に十分押し込み、ホースバンドで固定してください。送油ホースの先端に灯油をつけるのを挿入しやすくなります。
- 油タンク側のバルブを少し開け、送油ホース先端まで灯油が確実に流れてくることを確認してください。送油ホース内に空気溜りがあると灯油が流れず点火不良の原因になります。空気抜きは油タンク側から、送油ホースを順次たぐっていくとできます。床に灯油をこぼさないように受皿等を用意し、慎重に行なってください。
- 送油ホースを本体の接続口に十分押し込み、ホースバンドで固定してください。
- 送油ホースを途中で山形になったり、もつれたりしないよう整えてください。
- 本体の送油ホース接続口のフレアナットの増し締めをし、灯油の漏れがないか確認してください。

据付け方法(全機種共通)

4 室温センサーの移動

- 設置場所や周囲の状態によっては、室温センサーの温度と室温に差が生じたりして好ましくない場合があります。
- 室温センサーを取りはずし、反対側に室温センサーを取り付けてください。
- 排気管に室温センサーのリード線が接触しないように注意してください。

5 本体の固定

- 本体を壁に壁固定具で固定しますが、取り付けは給排気筒を取り付ける手順の中で行います。

給排気筒(管、ホースなど)の点検

注意

取付けが終わりましたら、もう一度下の図を参考に点検してください。×印のような取付けは危険であり不完全燃焼をおこすおそれがあります。必ず正しく処置してください。

- 可燃物、カーテン、洗たく物などが給排気筒に接触していないこと。排気管に電源電線・可燃物が接触していないこと。
- 給排気筒や排気管の接続部がゆるんだり、すきまがないこと。排気管接続部からの臭いがないこと。
- 床下に排気していないこと。
- 給排気筒の取付けが上り勾配になっていないこと。
- 排気管は壁から2cm以上離れていること。
- 給排気筒は必ず屋外に出ていること。
- 排気管が可燃物に接近したり、貫通している場合は断熱されていること。
- 延長距離は3m以下のこと。曲がりは3カ所以下のこと。
- 給排気筒の近くに燃焼物がないこと。
- 給排気筒トップの近くに障害物がないこと。

HAの配線(HAを使用される場合)

ツイストペア線HAを使用する場合

FF用HA接続コード(OK-BHA2)とJEMAアダプター(HK-AJ110)を用意してください。

- 本体背面(左上端部)のノックアウト穴をあけてください。
- ノックアウト穴下部の長穴から通信ケーブルを通し、ノックアウト穴から取出し、JEMAアダプターに接続してください。
- HA接続コードをJEMAアダプターに接続し、ノックアウト穴を通してJEMAアダプターをノックアウト穴に取り付けてください。(HAシステムの取扱説明書・工事説明書に従って工事を行ってください)
- 本体の前面板を取り外してください。
- 本体の前面右上端部のP板にHA接続コードのコネクターを接続してください。

- 排気管及びダクトにHA接続コード、通信ケーブルが接触しないようにしてください。

給排気筒(管、ホースなど)の取付け

特に注意していただきたいこと

注意

- 変則工事の禁止
次のような工事は、安全性や性能面に支障をきたすため、絶対に行わないでください。
●給排気筒をくねくねに曲げないでください。
●給排気筒を室内に出す。
●給気ホースを使わずに排気管だけ使用する。
●給排気筒を屋外に向けて上り勾配に取り付ける。
●排気管検知リード線を給排気筒の端子台以外に接続する。
●排気管接続箇所アルミはくテープを使用する。
- 排気管外れ検知装置
排気管外れ検知装置が付いていますが、正しく工事しないか誤作動して検知装置として働かなかったり、ストーブが燃焼しなくなりますので十分注意して工事を行ってください。
●排気管に微電流を流して、接続を確認しています。1.給排気筒の端子台に必ず排気管検知リード線を接続してください。
2.排気管の接続部には、排気管固定金具を取り付け、確実に電流が流れるようにしてください。
3.延長給排気工事の場合同梱の背面カバー絶縁を必ず背面カバーのノックアウト穴の周囲に取り付け、排気管と背面カバーの電気的絶縁をしてください。
- 延長給排気工事
●延長工事は長さ3m、曲がりは3カ所以内にしてください。
●延長給排気設置の場合は室内側傾斜フランジをタッピンネジ3本で締め付けてください。
- 集合煙突利用の禁止
集合煙突を利用しての給排気工事は絶対にしないでください。
- 積雪地域でのご注意
積雪の多い地域では、雪や風の吹きだまりになるような場所や、つららの真下になるような場所には給排気筒を取り付けしないでください。
- 給気ホースと排気管
給気ホースと排気管(特に排気口付近の曲がり部分)とが接触したり、交差しないように注意して設置工事を行ってください。
- ラス張りの壁貫通時のご注意
銅管、銅管保護パイプを取り付ける場合
●壁貫通部の銅管、銅管保護パイプに絶縁テープを巻いて電気的絶縁を施してください。
給排気筒を取り付ける場合
●給排気筒の外周に同梱の絶縁パイプをかぶせて電気的絶縁を施してください。

専用部材の使用

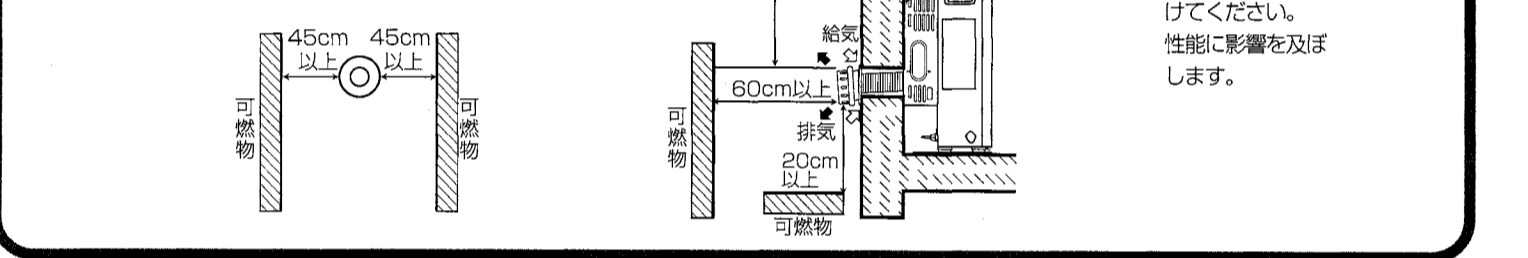
給排気筒は、必ず付属の「標準給排気筒セット」および別売品の「各種延長工事部材」を使用してください。なお、本体のみを新規に購入される場合でも、各種延長工事部材もお取り替えされることをおすすめします。(長期間ご使用になりますと劣化していたり、異物がつまっている場合があります)

Oリングの種類及び呼びは下記のものをお使いください。
用選別: 運動用Oリング 材料別: 4種D 呼び番号: P39

給排気筒の取出し場所の選定

- 給排気筒は外気に通じる壁、または窓に取り付けてください。
- 人通りの激しいところや、雪や風の吹きだまりになるような場所には取り付けしないでください。
- 給排気筒の周囲や近くに、危険物や障害物のないところを選んでください。

給排気筒の標準取付け寸法



給排気筒(管、ホースなど)の点検

電灯線HA・テレコンHAを使用する場合

- 前面板を取り外してください。
 - アダプター接続コードの4Pコネクターを背面のノックアウト穴下部の長穴より内部に引き込み、本体制御部のHA(4P)コネクターへ挿入接続してください。
- 詳細については電灯線/ハルス又はテレコンハルスの取扱説明書・工事説明書に従って工事を行ってください。
 - 排気管にHA接続コードが接触しないようにしてください。

試運転

標高・延長による調節について

- 付属の初期設定パネルを表示部・操作部の上に重ねてください。
- 電源プラグを専用コンセントに差し込んでください。
- 電源スイッチが「切」の状態、初期設定パネルにしたがって、標高と延長給排気工事の設定をしてください。
- 電源スイッチを「入」にしてください。

試運転

試運転はお客さまと立ち会いで行ってください。

1 運転準備

- 油タンクに給油する。
- 油タンクと送油管接続部から油漏れがないか確認する。
- 定油面器セットルーバーを2~3回押し上げる。(OK-452E、OK-452ED、OK-602E、OK-602ED、OK-612F、OK-1002F)
- 電源スイッチが「入」になっていることを確かめてください。

2 運転

- 運転スイッチを押す。
- 運転ランプが点灯し、約5~6分後(室温0℃のとき)に燃焼を始めます。
- 燃焼を始めてから約1分半後に温風が出ます。
- 温風吹き出し方向が適当であるかどうか確認してください。
- はじめてお使いになるときは塗料の焼きつくにおいと温風吹き出し口より煙が出ることがありますが、しばらく使用するとなくなります。
- 運転スイッチを再度押す。
- 運転ランプが消え、消火します。
- 本体内部の温度が下がり、約6分後に送風が止まります。